# 条件表現の全国分布概観

三 井 はるみ

## 1. 『方言文法全国地図』による概観

## 1.1 条件表現の地図

『方言文法全国地図』には、順接仮定条件表現に関して 21 項目の地図が収められており、 従属節末の品詞・動詞の活用の種類・肯否といった形態的な面と、仮定の意味や構文(前件と後件の関係、主節のモダリティ)等による違いを、ある程度カバーしている。ここではその中から次の7枚の地図によって、全国的な地理的変異の様相を概観する。() 内に、「条件表現共通調査項目」における分類を添える。

第 128 図「きのう手紙を書けばよかった」(非従属節用法/助動詞的用法/反事実的) 第 167 図「あした雨が降れば船は出ないだろう」

(従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/基本用法/主節末:動詞述語・推量) 第168 図「あした雨が降ったらおれは行かない」

(従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/基本用法/主節末:動詞述語・意志) 第170図「そこに行ったらもう会は終わっていた」(従属節用法/事実的用法/発見) 第169図「おまえが行くとその話はだめになりそうだ」

(従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/後件の反期待性)

第225図「そっちへ行ってはいけない」(非従属節用法/助動詞的用法/禁止)

第133図「手紙を書くなら字をきれいに書いてくれ」

(従属節用法/仮説的用法(認識的条件))

各調査文は、それぞれ共通語の「ば」「たら」「と」「なら」「ては」が現れやすい文として作成されたものである。ただし実際には、共通語において、調査文に示された以外の形式が使用されないわけではない。各地方言においても、提示された調査文と同じ形式や、当該方言で最も有力な形式など、使用可能な複数の形式の一部のみが回答されている場合があると考えられる。その点を念頭に置いて分布を眺めるとともに、記述調査においては、複数形式の置き換えの可能性について注意を払うことが必要となろう。

以下,各図について語形を統合した略図を図1~図7に示し,それぞれに見られる語形と分布の状況を,分布範囲の広い語形を中心に略述する。

### 1.2 分布の概観

図 1 GAJ128 図「きのう手紙を書けばよかった」略図

調査文は、前件は発話時点で成立しなかったことが確定している事態で、それが仮に成立していたと仮定し、後件でそれに対する評価を述べる文である。従属節と主節の関係を構成するというより、「ばよかった」全体で、「反事実(後悔)」という助動詞的な意味を担う。反事実的という点では、古代中央語の反実仮想にあたる用法である。

「カケバ」は東北から関東東部にかけてと九州南西部に分布し、また、その融合形である「カキャー」が中部地方と中国・四国南西部・九州北東部に分布、そして、近畿から四国北東部にかけて「カイタラ」が分布する、という典型的な周圏的分布が認められる。また、南東北の山形県・福島県と、熊本県北部など九州の一部には、「カクト」が、「カケバ」と併用が多いながら、集中的に分布している。

# 図2 GAJ167図「あした雨が降れば船は出ないだろう」略図

調査文は、前件の未実現の事態が未来において成立した場合を仮定し、後件でそれに伴って生じる事態を述べている仮説的な仮定条件の文で、主節末は推量表現である。『方言文法全国地図』の項目の中では、最も典型的な仮説的用法の文である。

この図の分布状況は、「ト」を用いる形式(「フルト」)が九州で減少している点を除き、 反事実的な128図「書けば」(図1)とおおむね一致する。

#### 図3 GAJ168図「あした雨が降ったらおれは行かない」略図

調査文は、前件の未実現の事態が未来において成立した場合を仮定し、後件でそれに伴って生じる事態を述べている仮説的な仮定条件の文である。167 図「降れば」(図 2 )と同じ仮説的用法だが、主節末が意志表現であり、共通語では「ば」よりも「たら」が現れやすいとされる。

図2と比べると、「タラ」を用いる地域が広がり、「フレバ」「フリャー」「フルト」などと併用されながら、ほぼ本土全体にわたっている点が注目される。ただし、東北北部と九州南西部などには「タラ」がほとんど現れない地域がある。「フレバ」「フリャー」「フルト」の分布地域は、167図とおおむね同様である。

## 図4 GAJ170図「そこに行ったらもう会は終わっていた」略図

168 図「降ったら」(図3)と同じく「たら」による調査文だが、事実的用法で、前件後件ともにすでに成立した一回的なできごとである。前件の動作の結果、後件の状態に気づいたことを表す。

東北北部と琉球を除いて、全国的にほぼ「イッタラ」 のみが分布している。東北北部に 分布するのは、「イッタッケ」「イッタバ」で、いずれも仮説的用法の 168 図「降ったら」 の地図には全く、あるいはほとんど現れておらず、事実的用法専用の形式である。

また, 「行く」の過去形「行った」の「已然形+バ」にあたる「イッタレバ」が見られる。具体的な語形は, 「イッタレバ」(東北と九州南西部), その融合形「イッタリャ」

(九州南西部),「ンジャレー」(沖縄本島南部)等である(「ンジャレー」は,「行く」にあたる動詞の過去形「ンジャン」の「已然形+バ」の融合形)。この形は仮説的用法の168 図「降ったら」(図3)にはほとんど現れない。中央語史上,仮説的用法の「たら」は,「たらば」の「ば」が脱落して生じ,事実的用法の「たら」は,「たれば」が「たりゃ」を経て生じた,とされる推移(小林1996:第8章)と対応する分布である。

# 図5 GAJ169図「おまえが行くとその話はだめになりそうだ」略図

調査文は、仮説的な仮定条件文で、後件が話し手にとって望ましくない事態と捉えられる内容である。文全体は、懸念があるので避けた方がよい、といった伝達的意味を担っており、共通語では、「ば」が使いにくいとされる。

全国的に「イクト」が分布する中で、東北北部と九州南西部には「イケバ」が見られる。 また、近畿から四国 北東部にかけては、「イクト」との併用が多いが、「イッタラ」がま とまって分布している。なお、方言特有語形の「トサイガ」がこの図のみに現れる。岐阜 県・愛知県にまとまって分布し、熊本県にも1地点見られる。

# 図6 GAJ225図「そっちへ行ってはいけない」略図

調査文は、助動詞的用法で禁止の意味を担う。共通語では「ば」「と」が使いにくいと される。

近畿から四国北東部にかけて「イッタラ」,それをはさむように,東北・関東・中部と,中国・四国南西部・九州北東部に「イッテワ」とその融合形の「イッチャー」が分布し,周圏的分布をなしている。なお,非融合形の「イッテワ」は主に東北に分布するが,東北では全般に副助詞「は」が用いられにくいため,むしろ「イッテ」が優勢である。また,東北北部には「イケバ」,九州南部には「イクト」がまとまって見られる。

# 図7 GAJ133図「手紙を書くなら字をきれいに書いてくれ」略図

調査文は、仮説的な仮定条件文のうち、前件の受け取ったばかりの情報などについて、 その事態が成立することが真であると仮定する認識的条件文で、主節末は依頼表現である。 共通語では「なら」のみが使用可能とされる。

「カクナラ」「カクンナラ」は、関東・中部と四国・九州に分布する。東北には、「ナラ」と同じく断定の助動詞に由来する「ダラ」「ダバ」と各地特有の準体助詞・形式名詞を用いた、「カクゴッタラ」(「カク{準体助詞/形式名詞}ダラ類」)、「カグアダバ」(「カクンダ(ラ)バ類」)等の多様な形が見られる。近畿は「カクンヤッタラ」であって、全国的に、「タラ」による形式とそれ以外とが、やはり周圏的分布をなしている。その他、「カケバ」の融合形である「カキャー」が、主に山口県と高知県に見られる。

また、古代中央語の代表的仮定表現形式である「未然形+バ」の形である「カカバ」が現れる。岩手県にまとまって分布するほか、長野県秋山郷・開田・奈川、三宅島、八丈島、

鹿児島県喜界島・奄美大島宇検村(語形は「カカバヤ」)・与論島(語形は「カカボー」)に 見られる。また、沖縄本島に多い「カクラバ」(那覇市首里では「カチュラー」)は、融合 語幹(主動詞が「いる」にあたる動詞「ッウン」と複合した語幹)の「未然形+ば」にあた る形で、基本語幹の「未然形+ば」にあたる「カカバ」とともに、意味の違いを持って使 われているようである(国立国語研究所 1963:69-70、津波古 1997:380)。

ただし、古代語の「未然形+バ」が、広く、反事実的用法と仮説的用法(予測的条件および、認識的条件)全般を担う形式であったのに対し、現代方言の「未然形+バ」は、133図「書くなら」(図7)のような、共通語の「なら」の意味にあたる、認識的条件を表す仮説的用法に偏る傾向がある。なお、図7で東北北部に(原因・理由ではなく)仮定条件を表す「カラ」という形があるが、これも、形容詞の未然形語尾(「高カラバ」等の「カラ」)が独立した形式と見られる。

#### 1.3 まとめ

以上の図に見られる語形と分布を、きわめて概略的にまとめると、**表**のようになる。地 点数は少ないがある程度まとまった分布をなす語形は表注として示す。琉球方言は地域差 が大きいが、代表地点として、那覇市首里の回答を挙げた。各調査文ごとの1行目は、提 示した共通語形と同じ形式、2行目以下はそれと異なる形式である。

The state of the s							
地域	東北北部	東北南部	関東・	近畿・四宮北東郊	中国・	九州南西部	沖縄本島 首里
調査文		山)	中部	四国北東部	四国南西部・ 九州北東部		目生
書けば	カケバ	カケバ	カケバ			カケバ	
		カクト	カキャー	カイタラ	カキャー ※1		カケー
降れば	フレバ	フレバ	フレバ			フレバ	
		フルト	フリャー	フッタラ	フリャー ※2		フレー
降ったら	フッタラ	フッタラ	フッタラ	フッタラ	フッタラ		
	フレバ	フルト	フリャー		フリャー ※3	フレバ	フイネー
行くと		イクト	イクト	イクト	イクト	イクト	
	イケバ		<b>※</b> 4	イッタラ	<b>※</b> 5	イケバ	イチーネー
行ったら		イッタラ	イッタラ	イッタラ	イッタラ	イッタラ	
	イッタッケ						ンジャレー
	イッタバ※6				<b>※</b> 7	<b>%</b> 8	
行っては							
	イケバ	イッテ	イッチャー	イッタラ	イッチャー※9	イクト	ンジェー
書くなら			カクナラ		カクナラ	カクナラ	
	カクNダラ	カクNダ	カクNナラ	カクNヤッタラ	カクNナラ	カクNナラ	
→(N/t	カカバ	ラ	カクダラ				カチュラ
準体助詞•	<b>※</b> 10	<b>※</b> 11	カクNダラ		<b>※</b> 13	<b>%</b> 14	<u> </u>
形式名詞)			<b>※</b> 12				

表 順接仮定条件表現形式の全国的地域差

※1 カクト, カクギラ, カクギー(佐賀等, 以下「ギー」はすべて同) ※2 フルナラ, フッギー ※3 フルナラ, フッギー ※4 イキャー, イクトサイガ(愛知等) ※5 イクギー ※6 イッタレバ ※7 イタギー ※8 イッタレバ ※9 イクギー ※10 カクカラ ※11 カクトキ(山形) ※12 カクジャー(山梨) ※13 カキャー(高知等), カクギー ※14 カクトキ(種子島)

図1~図7および表から,方言特有の形式は,中部(愛知県・岐阜県)等の「トサイガ」, 九州(佐賀等)の「ギー」などがあるものの,本土では全体に見ても多くないと言える。

むしろ目立つのは、共通語で類義関係にある「バ」「ト」「タラ」「ナラ」の形式が、 1枚の地図、つまり、同一の調査文に対する回答の中に、それぞれ固有の地理的領域を持って分布している点である。ここから、共通語と同じ形式でも、方言によって、カバーする用法の範囲や、構文的・意味的制限のありようが異なることがうかがわれる。さらに地域別に見ると、東北北部では「バ」が、近畿から四国にかけての地域では「タラ」が、それぞれ広い用法で用いられることなど、各地方言の体系の一面がうかがわれる。

一方, 共通語の「ば」「たら」「と」「ては」が担う意味領域では, その間で共通の形式が現れることがあるが, 「なら」が表す意味領域だけは, 全国のほとんどの方言で, それらとは違った形式が当てられていることも見て取れる(ただしこの傾向は, ここで取り上げた動作性述語の場合に顕著で, 状態性述語の場合は重なりも見られる)。そのような中で次の形式は, その境界を越えた広い用法を持つ可能性があり, 注目される。

- ・佐賀県等の「ギー」
- ・山口県を中心とした中国地方から大分県にかけてと高知県,および,岐阜県と長野県の県境地域に見られる「仮定形+バ」の融合形(「フリャー」,「カキャー」)
- ・熊本県北部を中心とした地域の「ナラ」
- ・長野県秋山郷、八丈島、奄美大島の「未然形+バ」

また, 意味拡張によって順接仮定条件を担うようになったと見られる形式に, 共通語では時間節を担う「トキ」(山形, 種子島等), 「(の)では」に由来する「ジャー」(山梨)がある。

#### 2. 辞書記述で扱う形式および要地の選定

以上の分布状況を踏まえ、また一部、これまでに行われた記述研究の報告も参照して、 条件表現に関して取り上げるべき形式および要地として、以下を選定した。

- ・秋田(北部):(-e)バ〔後件の反期待性による制約なし〕,タラ〔事実的用法に使用しない〕,タッキャ〔事実的用法専用〕,ダバ・ゴッタラ/ゴッタバ〔「なら」相当〕
- ・秋田(南部):(-e)バ〔後件の反期待性による制約なし〕,タラ〔事実的用法に使用しない〕,タバ〔事実的用法専用〕,カラ〔形容詞の未然形活用語尾の独立〕,ナバ・ゴッタラ/ゴッタバ〔「なら」相当〕
- ・岩手: (-a)バ〔古代中央語の「未然形+バ」の残存か、融合による新生か〕
- ・山形:ト〔仮説的用法・反事実的条件で多用〕,トキ〔時間節からの拡張〕,テ〔「ては」相当。「は」を用いない方言〕
- ・山形県(庄内): (-o)バ[「なら」の意味で使用。意志形との関連はあるか。]
- ・八丈島: (-a)バ [古代中央語の「未然形+バ」の残存?]

- ・山梨:ジャー[「なら」の意味で使用。「(の)では」に由来。]
- ・富山: タシノ [トサイガ類] ・タト [トにタが前接]
- ・岐阜:トサイガ [方言特有形式]
- ・大阪:タラ〔広い用法で使用,他形式の不使用〕
- ・高知: (-e)バの融合形 [「なら」の意味で使用]
- ・佐賀:ギー〔方言特有形式〕
- ・熊本:トサイガ〔方言特有形式〕,ナラ〔仮説的用法で使用〕
- ・琉球: (-a)バ [古代中央語の「未然形+バ」の残存?]

(琉球には他に、ネー、ティカー、クトゥ、ケンヤ等の方言特有語形がある)

#### 参考文献

国立国語研究所(1963)『沖縄語辞典』大蔵省印刷局

小林賢次(1996)『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房

真田信治(1989)『日本語のバリエーション』アルク

- 津波古敏子(1997)「琉球列島の言語(沖縄中南部方言)」『言語学大辞典セレクション:日本列島の言語』三 省堂
- 彦坂佳宣(2007)「仮定条件の全国分布とその特徴 『方言文法全国地図』を資料として—」『ことばの論文集 —安達隆一先生古稀記念論文集—』おうふう
- 日高水穂(1999)「秋田方言の仮定表現をめぐって ―バ・タラ・タバ・タッキャの意味記述と地域的標準 語の実態―」『秋田大学教育文化学部紀要』54
- 日高水穂(2003)「条件表現「すれば」「したら」「すると」」野田春美・日高水穂『現代日本語の文法的バリエーションに関する基礎的研究』科学研究費補助金研究成果報告書
- 日高水穂(2008)「「そこに車をとめればダメです」―標準語と方言の意味のずれ」『月刊言語』37(15)
- 三井はるみ (2009)「条件表現の地理的変異 ―方言文法の体系と多様性をめぐって―」『日本語科学』25

# きのう手紙を書けばよかった (非従属節用法/助動詞的用法/反事実的) ▲ カケバ類 カケバ・カゲバ・カヘバ・カエバ・ カキバ・ハキバドゥ・カキワ 等 ▲ カキャー類 カキャー・カキャ・カケア・ カカー・カケー・ハケー 等 ∇ カカバ カカバ・ハキャバ ₹ カクバ類 カクバ・カグバ・カクボ・カークワ ↑ カイタラ類 カイタラ・ケータラ・ カキッタラー・カッタリャー 等 『 カイタラバ類 ケータラバ ● カクト類 カクト・カグト・カット等 ■ カクナラ ロ カクンナラ ∨ カクギー類 カクギー・カクギリャ・カクギット等 ♪ カキティカー類 カチカ・カキシカー・カクカー 等 その他 ■ 無回答 \* 『方言文法全国地図』第128図をもとに作図

図1 GAJ128図「きのう手紙を書けばよかった」略図

あした雨が降れば船は出ないだろう

# (従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/基本用法/主節末:動詞述語・推量) ▲ フレバ類 $\alpha^{\it K}$ フレバ・フェバ・プリバ・ フイバ・フリワ 等 ▲ フリャー類 フリャー・フリャ・フレアー・ フラー・フヤー・フレー・フイレー 等 フラバ類 フラバ・プラバ・プラボー フルバ フッタラ類 フッタラ・フタラ・プッター・ ッフチャラ 等 フッタラバ ● フルト類 フルト・フット 等 フルナラ類 フルナラ・フンナラ 等 フルンナラ類 フルンナラ・フットナラ 等 フル{準体助詞/形式名詞} ダラ類 フルゴッタラ・フッコンダ・フルヨダラ 等 ■ フルンダバ類 フルゴッタバ・フルゴッダバ Y フッチャー類 フッテア・フッチャー AS. ↑ フルトキ・フッタトキ類 フリュントゥキヤ・フッタトキャ 等 フッギー・フリギリャ・フルギット・フッタギリ Ÿ. ₩ フイネー類 フィネー・プィネー フーティカー類 フティカー・フズィティガー・ フーズィッカー・フティカラー 等 その他 無回答 『方言文法全国地図』第167図をもとに作図

図2 GAJ167図「あした雨が降れば船は出ないだろう」略図

あした雨が降ったらおれは行かない

# (従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/基本用法/主節末:動詞述語・意志) ▲ フレバ類 $\mathcal{J}^{\omega}$ フレバ・フェバ・フリバ・ プリバ・プリボー・フイバヤ 等 ▲ フリャー類 フリャー・フリャ・フレアー・ フラー・フヤー・プレー・フイレー 等 ∇ フラバ類 フラバ・プラバ・フラバヤ・プラボー 等 ∀ フルバ ↑ フッタラ類 フッタラ・フタラ・プッター・ ッフチャラ 等 ♀ フッタラバ類 フッタラバ・フッターバ 等 ( フッタバ ↑ フッタレバ類 フッタリャ・フッタリャー ● フルト類 フルト・フット 等 ■ フルナラ類 フルナラ・フンナラ 等 ■ フル{準体助詞/形式名詞} ダラ類 フルゴッタラ・フッコンダラ・フルヨダラ 等 □ フルンダバ類 フルゴッタバ・フルエンタバ ♪ フルンヤッタラ類 フルンヤッタラ・フルガダッタラ O Y フッチャー類 <sub>フッチャー・フチャ・フュンチャ</sub>等 ↑ フルトキ・フッタトキ類 Ŋ. フットキャ・フッタトキャ 等 フッギー類 フッギー・フィギ・フッギニャ・フッタイギ等 ¥ フイネー類 フィネー・プィネー **1** フーティカー類 フティカー・フーティガー・ フズィカー・フーズィッカー・ フユンカ・フーカ 等 \* その他 ▽ 無回答 『方言文法全国地図』第168図をもとに作図

図3 GAJ168図「あした雨が<u>降ったら</u>おれは行かない」略図

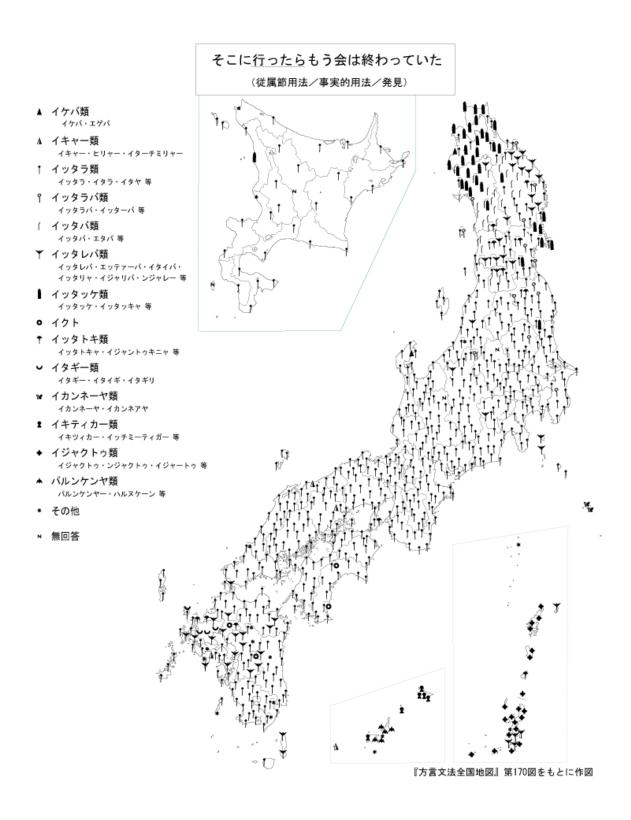


図4 GAJ170図「そこに<u>行ったら</u>もう会は終わっていた」略図

# おまえが行くとその話はだめになりそうだ (従属節用法/仮説的用法(予測的条件)/後件の反期待性) ▲ イケバ類 gイケバ・イゲバ 等 イキャー類 イキャー・イキャ・イケア・ イカー・イチェー 等 ∇ イカバ類 イキャボー・イカバヤ イクバ類 エグバ・イク<sup>°</sup> バ・イクボー 等 ↑ イッタラ類 イッタラ・イタラ・ングチャラ 等 イクト類 イクト・イグト・イキュートゥ 等 ■ イクナラ類 イクナラ・イッナラ 等 イクンダラ類 イグゴッタラ・イッタゴンダラ ■ イクンダバ類 イグゴッタバ Y イッチャー類 イッチャー・イッチャ・イッテワ・ イキテャー・ンジェー 等 イクギー類 イクギー・イッギー・イクギラー・イタギリ 等 ● イクトサイガ類 イクトシャガ・イクトサイニ 等 **イチーネー類** ィチーネー・イクンネー・イチュネー 等 1 イキティカー類 イキティカー・イッティガー・イジカ Ş, ハルカー・パルッカー 等 \* その他 x 無回答 『方言文法全国地図』第169図をもとに作図

図5 GAJ169図「おまえが<u>行くと</u>その話はだめになりそうだ」略図

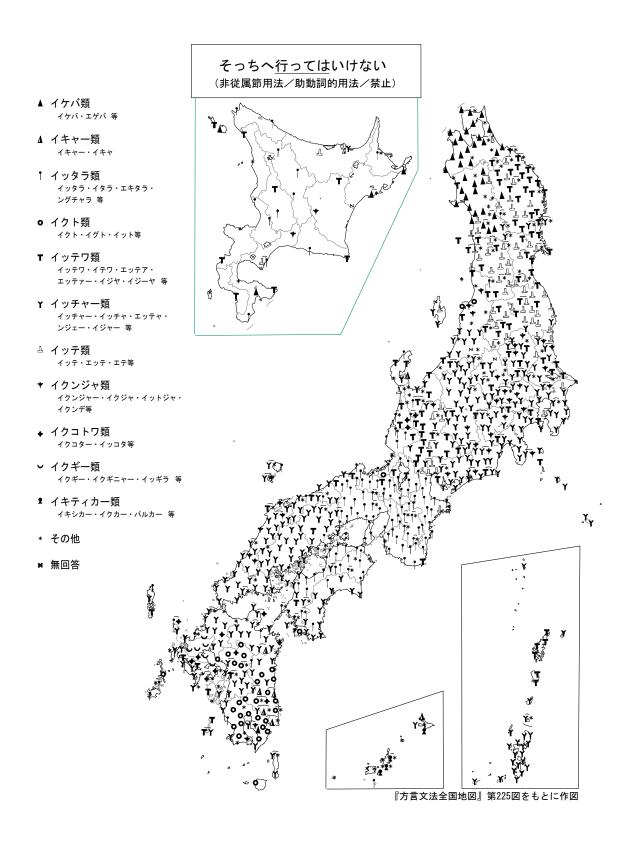


図6 GAJ225図「そっちへ行ってはいけない」略図



図7 GAJ133図「手紙を書くなら字をきれいに書いてくれ」略図